

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472601416
法人名	社会福祉法人 清水地域福祉奉仕会
事業所名	高齢者グループホーム おやどり
訪問調査日	平成20年11月4日
評価確定日	平成20年12月27日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1472601416
法人名	社会福祉法人 清水地域福祉奉仕会
事業所名	高齢者グループホーム おやどり
所在地	229-1123 相模原市上溝7-5-24 フレンドリーハイツ1階 (電話) 042-760-1899

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成20年11月4日	評価確定日	平成20年12月27日

## 【情報提供票より】(平成20年10月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤	10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 8.9 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	47,222 円	その他の経費(月額)	31,000 円	
敷金	有( 100,000 円)	無	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 84.3 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	さがみりハビリテーション病院、相模中央クリニック
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは相模線上溝駅から5~6分のところにあり、「清水地域福祉奉仕会」としては地域に密着し十分に浸透している。グループホームとしても、認知症専門ホームとして、その理念と認知症の方が共同生活を営む場であることの広報に努めて来ており、地域密着と云う側面での課題は十分に達成している。「認知症」そのものでも地域住民への啓蒙に努め、その一端として認知症のデイサービスを開始し、現在では登録者4名がデイに参加している。このデイサービスを通じて馴染みながらのサービスの利用、自然な形での入居への移行、地域との交流、「認知症」そのものの啓蒙に繋がることを望んでいる。また、同じ法人(清水地域福祉奉仕会)として展開している保育園、デイサービス、グループホームが法人の福祉相談室も合わせた連携で絶妙なコラボレーションを發揮し、保育園の保母さんの臨職としての応援、全員ケア会議時の応援(保母さん、デイの職員)、デイの園養士の活用など相乗効果を發揮出来ている。グループホームとして2階の会議室はデイと一緒にエキササイズに有効にである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p><b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>この1年間は医療の関係を重点的に取り組んだ。ご家族に対して医療連携体制のご説明を行い全員から承諾を得た。ご家族には「重度化した場合におけるたいおうに関する指針」を作成し署名・捺印して頂いている。主治医がいる場合は強制はしないことも説明してあるが殆どが往診医を活用している。往診医については光和さくらクリニックと契約し24時間対応の体制を整えた。看護師はデイの看護師を兼務で時間を決めて勤務してもらっている。</p>
	<p><b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b></p> <p>自己評価作成については、定期的開催される職員会議等で話し合う機会を設け、業務の改善、実施をしなsから意見を集約している。外部評価を活用し職員一人ひとりが日々の介護業務の意義を確認し、向上を目指している。外部評価の結果は真摯に受け止め、職員の介護力の向上を図ることを目標とし、日々の業務マニュアルに蓄積している。職員会議等で介護上の問題点及び対応等を取り上げ認識の共有化に努めている。</p>
重点項目②	<p><b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b></p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回のペースで実施している。開催日は2ヶ月毎の第3金曜日とほぼ固定化したことにより参加がしやすくなったと好評である。メンバーは地元自治会長、民生委員、元民生委員(改正後も継続参加)、地域包括支援センターの職員、ひまわり会委員、近隣の障害者グループホーム所長、入居者代表(家族会代表)、法人理事長、ホーム長、ケアマネジャーである。大人数ではあるが増設した会議室でホームの見学も併せて行っている。実家の清水屋さんではお年寄りサロンが活動したり、地域交流からスタートした「清水地域福祉奉仕会」が母体であったり、保育園設立以来のお付き合いの知的障害者グループホームとの相互の助け合いなどの環境も整っている。</p>
重点項目③	<p><b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b></p> <p>ご家族に対しては、毎月の定期連絡、来訪時、近況報告の他、3ヶ月に1回の割合で発行する機関紙「ハローおやどり」で全体の動きをお知らせしている。家族会は定期的に開催する他、ご家族が気軽に参加出来るお食事会などを開催し、そのご意見を運営に反映している。家族会の会長には運営推進会議のメンバーとなって頂いている。ご家族とは食事や一緒に日帰り旅行など機会を設けている。イベントなどの折には協力頂いている。ご利用者の状況については介護計画の承認を得ながら情報の交換をするよう努めている。</p>
重点項目④	<p><b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b></p> <p>毎週1回、地域の方がボランティアで昼食を作りに来てくれている。子供たちとの交流については、同じ法人が運営している保育園、同系列にある幼稚園との定期的な交流がある。パーベキューパーティなどはご近所の人達を招いて行っている。その折、参加した近くのコンビニの新人店員がちょうどお誕生日だったのでパーベキューパーティの時にみんなでおめでとうを云ってあげるなど暖かいイベントである。運営者は上溝地区社会福祉協議会の理事として活躍している。また、社会福祉法人のグループホーム部会に参加している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者は地区社協の理事として活動しており、ホームとしては運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域包括支援センターが開催する、“地域ケア会議”等に積極的に参加し、地域住民との交流を深めている。地域に対する、運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。	○	自治会行事の参加、近隣の方々を招待しての食事会等実施し、地域の方々との交流を深めている。今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体及び事業所ごとに研修を行い、他職種の職員と理念を共有し、日々の実践の中で活かすように真剣に取り組んでいる。管理者・職員は、会議等で日頃から理念に即した援助をしているかを話し合いサービス提供場面で反映している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域住民との交流もあるので利用者が散歩に出かけると気軽に声をかけていただくことが多い。本年度も自治会の役員(代議員)を引き受け、積極的に地域活動に参加し、地域住民との交流を図っている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を受け止め、職員の介護力の向上を図ることを目標とし、日々の業務マニュアルを作成している。定期的開催される職員会議等で介護上の問題点及び対応等を取り上げ認識の共有化と業務の改善に努めている。職員一人ひとりが日々の介護業務の意義を確認し、向上を目指している。		今後も継続して実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、メンバーの地域の民生委員、自治会長、地域包括支援センター、利用者家族代表等のご意見を頂き反映できるように積極的に取り組んでいる。理念に基づいた、サービスを心掛け、会議等で話し合ったことを確認し、皆様からいただいた意見をサービス向上に活かしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連絡を密にとり、講習や研修等、市町村事業に参加できるよう積極的に取り組んでいる。常に介護保険課、高齢者福祉課、生活支援課、あんしんセンター等連絡を密にとり連携をとっている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にご家族が参加できるお食事会等開催し、来訪時、自然な形で近況報告やホームでの暮らしぶりなどをお話できる機会を積極的に設けている。また、職員の異動時にご家族・ご本人にご報告させていただいている。3ヶ月に一度、新聞”ハローおやどり”を発行し、ホームでの状況をご家族に郵送でお送りしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口、及び担当職員が明確であり、入居者・ご家族にお伝えしている。ご家族面会時等、自然な形で意見をいただけるように、日頃からコミュニケーションを図っている。家族会を定期的に開催し、意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、利用者の子どもの年齢層の50歳代や、孫年齢層の20歳代の人を採用するようにし、利用者との会話やホームが目指している家庭的な雰囲気が日常的に作られるように考慮している。異動に関しても、法人内での異動が多く、顔なじみの職員が多く、利用者へのダメージも最小限に抑えている。		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員から支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力を行っている。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者が職員育成の必要性を認識し、新人職員・一般職員・リーダー職員・管理者と段階に応じて、研修する機会を確保している。異なる職種の職員も同じ研修を受けることにより、“意識や認識だけでなく行動をおこす”という研修の目的を共通認識し、実践で行かせるように日々取り組んでいる。	○	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の高齢者福祉団体のグループホーム部会に所属し、他施設の見学などを行い、そこから事業全体の動向を把握し、協力しながら質の向上を目指している。これらの情報は職員会議等を通じて職員にも伝達され共通認識を有している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「認知症」そのものでも地域住民への啓蒙に努め、その一端として認知症のデイサービスを開始し、現在では登録者4名がデイに参加している。このデイサービスを通じて馴染みながらのサービスの利用、自然な形での入居への移行、地域との交流、「認知症」そのものの啓蒙に繋がることを目指している。入居前にホームを見学してもらい、本人が環境の変化に徐々に馴染めるように援助をおこなっている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、支援する側・される側というスタンスではなく、お互いに学び合うスタンスで利用者と支え合う関係を築いている。調理・洗濯・園芸等、入居者を一緒に日日常生活において本人が必要とされている環境作りに努めている。また、入居者個々のやり方を尊重し、職員も学んでいる。		今後も継続して実施して行く。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支える為に支援している。普段の生活を通し、思いや希望の把握に努め定期的なモニタリングに反映させている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・関係者と会議等で話し合う機会を設け、またアセスメントに基づいて、入居者の目標をたて、ご本人の意向・地域での暮らし等本人の特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族・必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の目標期間を明示して、定時に現状にあった見直しを行っている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人・家族・必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。状態変化に応じた随時の見直し、新たな要望や変化が見られない場合の見直しを行っている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型認知症対応型通所介護を入居者のケアに配慮しつつ併設している。また同じ法人(清水地域福祉奉仕会)として展開している保育園、デイサービス、グループホームが法人の福祉相談室も合わせた連携で絶妙なコラボレーションを発揮し、デイの栄養士の活用など相乗効果を発揮出来ている		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、関連施設の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を整え、心身の変化や、異常発生時に、定期的に往診に来て頂き、気軽に相談できる医療機関と提携している。本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、ご家族から同意を頂き、署名・捺印を頂いている。重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	○	今後も継続して実施して行く。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。また、メモや記録をとる時に、イニシャルで名前を記載するなど守秘を徹底している。入居者の一人ひとりを理解した上で対応している。記録等、他に決して漏らさないことと規定している。、		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様々なレクリエーション・行事等を行っている。本人のペースを尊重し、トランプ・体操・貼り絵・ゲーム等自由に参加してもらっている。居室では、一人で昼寝をしたり、パズルを行ったり、本人が望む過ごし方の支援を行っている。職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯茶碗や湯呑、箸等入居者一人ひとりが使い慣れたものに行っている。また、職員も入居者と同じ食事を準備し、できるところは手伝っていただき、利用者の残っている力を発揮できるよう支援している。また一緒に美味しいものを楽しんで食べながら、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。買物の際、入居者の食べたい献立を伺ったり、一緒に調理することで、食事が楽しくなるように支援し同じ食事を職員も食べている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意向に沿った入浴ができるように、またくつろげるように支援している。不安や羞恥心・プライバシーに配慮して行っている。入居者一人ひとりが気持ち良く入浴できるようになるタイミングで誘導するよう心掛けている。入浴拒否者にも無理強いすることなく、別の職員が誘導するなど、工夫しながら落ち着いて入浴できるように配慮している。		今後も継続して実施して行く。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう支援している。また、食器洗い・掃除・洗濯物・洗濯物たたみ等本人の活力を引き出す役割を担っている。生活歴や出来ることの把握。個々の力を活かした役割分担を心掛けている。又、職員主導を排除し、不公平間をあたえないようにも努めている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が施設の中だけで過ごさずに積極的に地域(買い物・散歩・近隣施設訪問・集会等)に出かけたり、また、外出の希望がでた時には、出かけられるように支援している。自分の希望を伝えることの出来ない方には日常の会話の中や家族との話の中から探し出し希望の場所へ行けるように支援していききたい。		今後も継続して実施して行く。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。しかし立地条件から不審者侵入の対策のため止むを得ず鍵をかえる場合もあり、その理由を家族に説明し、了解を得ている。		今後も継続して実施して行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定し、法人内で定期的に避難訓練を行っている。また災害時の備品の備蓄も行っている。地域ケア会議での災害時の対策の関心も高く、地域の協力も得られるよう働きかけている。年4回以上の防災訓練に利用者と共に参加し避難方法を学んでいる。運営推進会議や自治会などで話し合い、地域の方々の協力を得ている。また、消火器の点検や、非常食用意し災害に備えている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの好みのも、馴染みのも、本人にとって美味しいもの、水分摂取量、利用バランスを一日全体を通じて状態や力、習慣等おおよそ把握し、隣接の当法人通所介護施設の管理栄養士に相談しながら支援している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地のよい空間作りを目指し、装飾品も家庭的な雰囲気を有している。また、落ち着いて暮らせるように、テレビやステレオの音の大きさや、陽射し等、光の強さにも配慮している。特に臭いや汚れが気になるトイレは、常に清潔を保つように努めている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支える為に支援している。		今後も継続して実施して行く。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

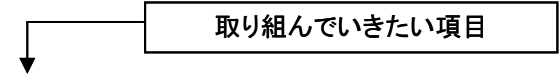
## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	高齢者グループホームおやどり
所在地 (県・市町村名)	神奈川県相模原市上溝7-5-24 フレンドリーハイツ1階
記入者名 (管理者)	清水 洋子
記入日	平成 20 年 10 月 28 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者は地区社協の理事として活動しており、ホームとしては運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域包括支援センターが開催する、“地域ケア会議”等に積極的に参加し、地域住民との交流を深めている。地域に対する、運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。	○	自治会行事の参加、近隣の方々を招待しての食事会等実施し、地域の方々との交流を深めている。今後も継続して実施していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体及び事業所ごとに研修を行い、他職種の職員と理念を共有し、日々の実践の中で活かすように真剣に取り組んでいる。	○	管理者・職員は、会議等で日頃から理念に即した援助をしているかを話し合いサービス提供場面で反映している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域で暮らす基盤作りのために地域のお祭り等積極的に参加している。また、家族や地域の方々とよりよい関係を築くためにバーベキュー大会など開催し、参加していただき交流を深めている。	○	地域の方々、ご家族様への開かれた施設を目指し、行事への参加を呼びかけ交流を深め、また理解していただいている。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の買い物等、近隣で購入できるものは購入し、ご近所付き合いを大切にしている。また、散歩等外出時に挨拶を交わし顔なじみの方々が増えている。	○	近隣の理・美容室の利用、買い物等で近隣の方とのコミュニケーションをはかっている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域住民との交流もあるので利用者が散歩に出かけると気軽に声をかけていただくことが多い。尚、本年度も自治会の役員(代議員)を引き受けている。	○	自治会の役員を引き受け、積極的に地域活動に参加し、地域住民との交流を図っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	市内の高齢者福祉団体のグループホーム部会に所属し、そこから事業全体の動向を把握している。これらの情報は職員会議等を通じて職員にも伝達され共通認識を有している。	○	”運営推進会議”等で民生委員・自治会長等から近隣人数等の把握に努めている。また、災害時等の訓練も行っている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を受け止め、職員の介護力の向上を図ることを目標とし、日々の業務マニュアルを作成している。職員会議等で介護上の問題点及び対応等を取り上げ認識の共有化に努めている。	○	定期的開催される職員会議等で話し合う機会を設け、業務の改善、実施している。職員一人ひとりが日々の介護業務の意義を確認し、向上を目指している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の民生委員、自治会長、地域包括支援センター、利用者家族代表等へ積極的に呼びかけ、皆様からご意見を頂き反映できるように積極的に取り組んでいる。	○	運営推進会議では理念に基づいた、サービスを心掛け、会議等で話し合わせたことを確認している。また、皆様からいただいた意見をサービス向上に活かしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連絡を密にとり、講習や研修等、市町村事業に参加できるよう積極的に取り組んでいる。常に介護保険課、高齢者福祉課、生活支援課、あんしんセンター等連絡を密にとり連携をとっている。	○	介護保険課、高齢者福祉課、生活支援課、あんしんセンター等連絡を密にとり連携をとっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域の権利擁護事業のあんしんセンターを利用し、援助は必要な人に活用できるよう支援している。また、市で開催する研修等積極的に参加し内容を職員会議等で報告・説明を行っている。	○	今後も、地域福祉権利擁護事業、成年後見制度、またそれ以外の市の研修・講習会等積極的に参加し、日々の業務の向上を目指していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自宅や、事業所内で虐待が見過ごされることがないように、細心の注意をはらい防止に努めている。ご家族とも、日頃からコミュニケーションをとるようにしており、防止に努めている。	○	管理者は、外部研修に積極的に参加し、職員会議等で、内部研修を行い、虐待防止を徹底している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明等に十分に説明している。また、ご本人・ご家族の不安や疑問点に対して納得されるまでご説明させていただき、個人情報保護法にも同意をいただいている。	○	入居契約前に、具体的な入居後の生活、支払い、解約等説明を行い、理解、納得の上、契約を実施している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口、及び担当職員が明確であり、入居者・ご家族にお伝えしている。また、常に利用者の発言や行動に気を留めて必要に応じケース記録に記するとともに管理者・リーダーに報告し対処している。	○	利用者の発言の中の不満を心にとめて、記録し管理者に報告し改善策の話し合いに努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にご家族が参加できるお食事会等開催し、ホームでのご様子を自然な形でお話できる機会を積極的に設けている。また、職員の異動時もご家族・ご本人にご報告させていただいている。	○	管理者・職員等は家族来所時に近況報告として、ホームでの暮らしぶりを随時お話ししている。3ヶ月に一度、新聞”ハローおやどり”を発行し、ホームでの状況をご家族に郵送でお送りしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口、及び担当職員が明確であり、入居者・ご家族にお伝えしている。ご家族面会時等、自然な形で意見をいただけるように、日頃からコミュニケーションを図っている。	○	家族会を定期的に開催し、意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、グループホーム運営上の方針や目標等を具体化し、職員に日常的に話している。また、職員会議などで、職員の意見や提案を聞く機会を設け、実践に反映させている。	○	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員会議等を通して、職務として守るべき法や規範、倫理等についてディスカッションを行うなど利用者やご家族の状況の変化・要望等に対応できるように資質の向上に努めている。また、研修等には勤務の変更等を行うことにより参加しやすい体制を作っている。	○	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者から見て子どもに相当する50歳代の年齢層や、孫に当たる20歳代の年齢層を採用するようにし、利用者との会話やホームが目指している家庭的な雰囲気や日常的に作られるように考慮している。異動に関しても、法人内での異動が多く、顔なじみの職員が多く、利用者へのダメージも最小限に抑えている。	○	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員から支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力を行っている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

## 5. 人材の育成と支援

○職員を育てる取り組み	運営者が職員育成の必要性を認識し、新人職員・一般職員に、			
-------------	------------------------------	--	--	--

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	員・リーダー職員・管理者と段階に応じて、研修する機会を確保している。異なる職種の職員も同じ研修を受けることにより、“意識や認識だけでなく行動をおこす”という研修の目的を共通認識し、実践で行かせるように日々取り組んでいる。	○	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の高齢者福祉団体のグループホーム部に所属し、そこから事業全体の動向を把握している。これらの情報は職員会議等を通じて職員にも伝達され共通認識を有している。	○	市内の高齢者福祉団体のグループホーム部に参加、又他施設の見学に行くなどし、事業全体の動向を把握し、協力しながら質の向上を目指している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	同業者と接する機会(会議やイベント等)、職員相互の親睦、悩みの聴取など、管理者は職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策をとりいれている。	○	日常の様子をみて、表情や行動から変化を読み取り、話し合いや、休憩を持ってストレスの軽減に取り組んでいる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員に役割分担を作成し、各自が責任を持ち、また向上心を持って働けるように努めている。また、日頃健康管理に気を付けている職員に対し、止むを得ず病気等の急な休暇にもできるだけ対応するように管理者は配慮している。	○	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。

## II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者のサービスについては、利用者の主体的決定を尊重し、安全と衛生に配慮すること等と合わせて家庭的雰囲気的生活を作ることを具体的目標としている。そのため、自然な形でご本人からお話を伺う機会を多く設けており、意見を反映させている。	○	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者のサービスについては、利用者の主体的決定を尊重し、安全と衛生に配慮すること等と合わせて家庭的雰囲気的生活を作ることを具体的目標としている。そのため、面会時等ご家族からお話を伺う機会を多く設けており、意見を反映させている。	○	電話相談から、面接相談まで随時行っている。家族の希望をよく聞き、受け止め意見を反映させている。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、職員会議等で意見交換し、本人と家族が必要としている支援を見極め、ケアプランを変更する等、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用前に、日常生活状況や家族からの要望を含めた情報、病院からの情報を得て記録している。ご本人に安心と納得がいただけるように利用者の支援サービスを提供している。入居時には親しみをこめて利用者の名前を積極的に呼ぶ等全職員が暖かく対応するようにしている。本人の状況などは家族に伝えて、不安解消を計るようにしている。	○	入居前にホームを見学してもらい、ご本人は不安なままで入居していないか家族とよく話し合い、本人が環境の変化に徐々に馴染めるように援助をおこなっている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、支援する側・される側というスタンスではなく、お互いに学び合うスタンスで利用者を支え合う関係を築いている。	○	調理・洗濯・園芸等、入居者を一緒に行い日常生活において本人が必要とされている環境作りに努めている。また、入居者個々のやり方を尊重し、職員も学んでいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、支援する側・される側というスタンスではなく、お互いに学び合うスタンスでご家族と支え合う関係を築いている。	○	ご家族が来所したおり、昔話などで本人の側面を見出し支援に活かしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との関係がより良い関係が築けるように面会はいつでも受け入れている。家族等との外出・外泊も、ホームに泊まることも可能である。	○	入居後も、ご家族が訪問しやすい雰囲気作りに努め、本人・家族の良い関係を保つ。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで大切にしてきた地域住民との交流もあるので、散歩途中でお会いする方々との関係も大切にしている。	○	可能な限りなじみの場所への外出をしていただくように、ご家族に協力を得ながら実施している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホームでの生活を楽しく、快適な生活になるように、午前・午後にレクリエーション・趣味活動・散歩・ドライブ等などをして過ごされている。利用者同士が関わられる場を多く設けている。	○	入居者一人ひとりの性格・力量を把握し、お互いが楽しく生活できるように支援している。
<b>項 目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、ご家族等が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。	○	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支える為に支援している。	○	普段の生活を通し、思いや希望の把握に努め定期的なモニタリングに反映させている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支える為に支援している。	○	入居前に本人の住居に出向き、家族の同席による面接を行っている。また、居宅サービスを使っている場合は、その情報も収集し、経過等の把握に努めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さず見守ったり、一緒に行ったりしている。	○	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。また、気付いた点は記録に残し、ケア会議等で話し合い共有化している。

#### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・関係者と会議等で話し合う機会を設け、またアセスメントに基づいて、入居者の目標をたて、ご本人の意向・地域での暮らし等本人の特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族・必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の目標期間を明示して、現状にあった見直しを行うことはもとより、話し合いに基づく臨機応変な見直し、状態変化に応じた随時の見直し、新たな要望や変化が見られない場合の見直しを行っている。	○	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人・家族・必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録として、日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○	個別記録を基に、一人ひとりの様子を把握し、モニタリングに役立てている。また、記録に必ず目を通すと同時に連絡事項・報告を行っている。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・ご家族にとっての多機能性として、共用型認知症対応型通所介護を入居者のケアに配慮しつつ併設している。入居者以外の人間関係を形成するとともに、レクリエーション活動へ参加するなど負担とは異なる環境で活動できるように支援している。	○	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域諸施設(商店・福祉施設・警察・消防等)から協力を得ることができるよう、理解をひろげる働きかけを行っている。	○	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、通所介護等他のサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	○	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが開催する、地域ケア会議等積極的に参加し、意見交換を行っている。また、権利擁護事業利用が必要な方には利用できるように支援している。	○	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の変化や、異常発生時に、気軽に相談できる医療機関(定期的に往診にきてくださる)を確保している。また、ご家族付き添いのもとおこなっている、通所介助時も日頃の状況等情報交換をさせていただき、かかりつけ医との良い関係が築けるように支援している。	○	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関と連携し、定期的に受診している。利用者の心身の変化や、異常発生時、認知症状など気軽に相談でき、また治療がスムーズにおこなえるよう受診時に必ず職員が同席し、日頃の状況を的確にお伝えできる体制をつくっている。	○	協力医療機関との連携し、定期的に受診している。利用者の心身の変化や、異常発生時、認知症状など気軽に相談でき、また治療がスムーズにおこなえるよう受診時に必ず職員が同席し、日頃の状況を的確にお伝えできる体制をつくっている。
	○看護職との協働			連携医療加算により週1回、看護師による健康管理を行



45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	バイタルチェックを行い利用者の身体状況を記録し、食事摂取量も記録され健康状態を看護師が定期的にチェックしている。さらに、健康維持や、身体機能の低下防止のため、看護師・介護職員協力のもと散歩や体操等行っている。	○	い、隣接の当法人の通所介護施設の看護師とも連携している。入居者の身体状況を記録し、食事摂取量も記録されている。さらに、健康維持や、身体機能の低下防止のため、看護師・介護職員協力のもと散歩や体操等行っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、利用者が安心して過ごせるよう、また早期退院のための話し合いや、情報交換等協力を医療機関へ行っている。	○	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、ご家族から同意を頂き、署名・捺印を頂いている。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「重度化した場合における対応に関する指針」を作成し、ご家族から同意を頂き、署名・捺印を頂いている。	○	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて方針を統一し検討や準備を行っている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去は、契約に基づくとともに、その決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退去先に移れるように、また住み替えによるダメージを防ぐよう支援できるように体制を整えている。	○	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
○プライバシーの確保の徹底	施設の運営方針が、入居者を個人として尊重し、声かけ等			一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳が維持されるようになってきている。具体的には、家族や友人との交流が自由にでき、好みや主体的な決定を尊重している。記録等、他に決して漏らさないことと規定している。	○	対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。また、メモや記録をとる時に、イニシャルで名前を記載するなど守秘を徹底している。入居者の一人ひとりを理解した上で対応している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	施設の方針からは、個人の尊重と尊厳を重視したものとされていることから個人の好みや主体的な決定を尊重した援助が行われている。自分ができるとは自分で行うようにして職員は見守っている。職員同士が連携しながら自立に向けた支援を行っている。	○	本人が思いや希望を表わせるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様々なレクリエーション・行事等を行っているが、本人のペースを尊重し、トランプ・体操・貼り絵・ゲーム等への参加は自由である。居室での生活は、一人で昼寝をしたり、パズルを行ったり、本人が望む過ごし方の支援を行っている。	○	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	好きな洋服を着ていただくなど、おしゃれを楽しめるように支援している。また、定期的に本人が望む近隣の理・美容室へ行けるように努めている。	○	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。また、更衣の際一緒に服を選んだり、身だしなみを整えられるよう声掛けを行っている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な食器を使っており、ご飯茶碗や湯呑、箸等人居物一人ひとりが使い慣れたものになっている。また、職員も入居者と同じ食事を準備し、できることは手伝っていただき、利用者の残っている力を発揮できるように支援している。また一緒に美味しいものを楽しんで食べながら、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○	買物の際、入居者の食べたい献立を伺ったり、一緒に調理することで、食事が楽しくなるように支援し同じ食事を職員も食べている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む、飲み物・おやつ・好みの物を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるように支援している。	○	本人が望む、飲み物・おやつ・好みの物を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導している。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○	おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導している。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。
	○入浴を楽しむことができる支援			

入居者一人ひとりが気持ちよく入浴できるように努めている

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意向に沿った入浴ができるように、またくつろげるように支援している。不安や羞恥心・プライバシーに配慮して行っている。	○	入浴者一人ひとりが気持ちよく入浴できるようにスタッフはタイミングで誘導するよう心掛けている。入浴拒否者にも無理強いすることなく、別の職員が誘導するなど、工夫しながら落ち着いて入浴できるように配慮している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない人には、安心して眠れるように一日の生活リズムを通し、日中活動的にするなど安眠策を取っている。	○	個々の安眠リズムの把握や体調によつての部屋の温度調整や布団の入れ替え等を行っている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう支援している。また、食器洗い・掃除・洗濯物・洗濯物たたみ等本人の活力を引き出す役割を担っている。	○	生活歴や出来ることの把握。個々の力を活かした役割分担を心掛けている。又、職員主導を排除し、不公平間をあたえないようにも努めている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が把握しており、日常的な金銭管理を本人が行えるよう入居者一人ひとりが力量に応じて支援している。	○	個々の力に応じて金銭管理を行っている。外出時には、本人が支払うのを支援している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が施設の中だけで過ごさず積極的に地域(買い物・散歩・近隣施設訪問・集会等)に出かけたり、また、外出の希望がでた時には、出かけられるように支援している。	○	自分の希望を伝えることの出来ない方には日常の会話の中や家族との話の中から探し出し希望の場所へ行けるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の花を見に行ったり、お弁当を持参してドライブへでかけたり、入居者やご家族とともに外出する機会をつくり支援している。	○	季節の花を見に行ったり、お弁当を持参してドライブへ出かけたり、入居者やご家族とともに外出する機会をつくり支援している。家族同様の個別外出の話をすすめ取り組んでいる。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からきた電話は本人につなぎ、また家族へ自ら電話をかける時、また、手紙のやり取りが可能な方には、支援している。	○	家族からきた電話は本人につなぎ、また家族へ自ら電話をかける時、また、手紙のやり取りが可能な方には、支援している。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、本人の馴染みの方々の訪問は常に大歓迎である。訪問者が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気をつくっている。	○	家族や知人、本人の馴染みの方々の訪問は常に大歓迎である。訪問者が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気をつくっている。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を制定しており、身体拘束は行わないということを全ての職員が認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○	身体拘束は行わないということを全ての職員が認識しており、身体拘束のないケアを実践している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。しかし立地条件から不審者侵入の対策のため止むを得ず鍵をかえる場合もあり、その理由を家族に説明し、了解を得ている。	○	入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。しかし立地条件から不審者侵入の対策のため止むを得ず鍵をかえる場合もあり、その理由を家族に説明し、了解を得ている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜を通して、安全に配慮している。また、利用者の安全対策として事故防止マニュアルが作成されている。	○	職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜を通して、安全に配慮している。また、利用者の安全対策として事故防止マニュアルが作成されている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○	薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の身体機能に合わせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。要所への手摺の設置・浴槽・便座等使い勝手の工夫を行っている。	○	入居者の身体機能に合わせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。要所への手摺の設置・浴槽・便座等使い勝手の工夫を行っている。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができるよう、法人主催の赤十字救急法講習等の初期対応の訓練を定期的に行っている。	○	入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができるよう、法人主催の赤十字救急法講習等の初期対応の訓練を定期的に行っている。
	○災害対策	《室を想定》 1ヵ月内で定期的に避難訓練を行っている		年4回以上の地震訓練(利用者1名)に参加し避難方法を

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火事を想定し、法人内で定期的に避難訓練を行っている。また災害時の備品の備蓄も行っている。地域ケア会議での災害時の対策の関心も高く、地域の協力も得られるよう働きかけている。	○	年4回以上の防災訓練に利用者と共に参加し避難方法を学んでいる。運営推進会議や自治会などで話し合い、地域の方々の協力を得ている。また、消火器の点検や、非常食も用意し災害に備えている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々におきうるリストを考え、職員同士又は会議で話し合い、その旨を家族へ説明している。リスクばかり考え規制が多くならぬよう、心掛けている。	○	個々におきうるリスクを考え、職員同士又は会議で話し合い、その旨を家族へ説明している。リスクばかり考え規制が多くならぬよう、心掛けている。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	心身の変化や、異常発生時に、気軽に相談できる医療機関(定期的に往診にきてくださる)を確保している。また、ご家族付き添いのもとおこなっている、通所介助時にも日頃の状況等情報交換をさせていただき、かかりつけ医との良い関係が築けるように支援している。	○	入浴時の身体観察、日常の様子観察やバイタルでの変化を見逃さず職員が情報を共有し、話し合い、その状況にあった対処に努めている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが使用する薬の目的や副作用・用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○	職員は一人ひとりが使用する薬の目的や副作用・用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。誤薬防止のため投薬に関しては、毎回本人確認を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態に合わせた調理方法や、おいしそうな盛り付けの工夫もしている。また、定期的に散歩に出かけるなど、身体を動かすことに積極的に取り組んでいる。	○	入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態に合わせた調理方法や、おいしそうな盛り付けの工夫もしている。また、定期的に散歩に出かけるなど、身体を動かすことに積極的に取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	整容の乱れ、口の汚し等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。入居者に応じた声掛けや、見守り支援を行っている。	○	整容の乱れ、口の汚し等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。入居者に応じた声掛けや、見守り支援を行っている。
<b>項目</b>		<b>取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)</b>	<b>(○印)</b>	<b>取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)</b>
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの好みのもの、馴染みのもの、本人にとって美味しいもの、水分摂取量、利用バランスを一日全体を通じて状態や力、習慣等おおよ把握し、隣接の当法人通所介護施設の管理栄養士に相談しながら支援している。	○	入居者一人ひとりの好みのもの、馴染みのもの、本人にとって美味しいもの、水分摂取量、利用バランスを一日全体を通じて状態や力、習慣等おおよ把握し、隣接の当法人通所介護施設の管理栄養士に相談しながら支援している。
	○感染症予防	感染症予防策として、PCR検査等感染症にかかると		感染症予防策として、PCR検査等感染症にかかると

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	疥癬・インフルエンザ・MRSA等感染症に対する予防や取り組みがあり実行している。また調理する職員の手洗い、調理器具の衛生管理、外出から帰宅時のうがい・手洗いを徹底している。	○	疥癬・インフルエンザ・MRSA等感染症に対する予防や取り組みがあり実行している。また調理する職員の手洗い、調理器具の衛生管理、外出から帰宅時のうがい・手洗いを徹底している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキン・まな板等定期的に除菌し、衛生管理を徹底している。また、季節の新鮮で安全な食材を購入し、冷蔵庫に早めに保管するなど管理も確実に行っている。	○	フキン・まな板等定期的に除菌し、衛生管理を徹底している。また、季節の新鮮で安全な食材を購入し、冷蔵庫に早めに保管するなど管理も確実に行っている。

## 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### (1)居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や、威圧感を感じさせず、入居者が家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関回りに草花を植えるなど、家庭的な雰囲気づくりを行っている。	○	違和感や、威圧感を感じさせず、入居者が家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関回りに草花を植えるなど、家庭的な雰囲気づくりを行っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地のよい空間作りを目指し、装飾品も家庭的な雰囲気を有している。また、落ち着いて暮らせるように、テレビやステレオの音の大きさや、陽射し等、光の強さにも配慮している。特に臭いや汚れが気になるトイレは、常に清潔を保つように努めている。	○	入居者が居心地のよい空間作りを目指し、家庭的な雰囲気を有している。また、落ち着いて暮らせるように、テレビやステレオの音の大きさや、陽射し等、光の強さにも配慮している。特に臭いや汚れが気になるトイレは、常に清潔を保つように努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が居心地のよい空間作りを目指し、装飾品も家庭的な雰囲気を有している。また、落ち着いて暮らせるように、テレビやステレオの音の大きさや、陽射し等、光の強さにも配慮している。また、見やすく、馴染みやすい時計や暦を目のつくところに設置している。	○	入居者が居心地のよい空間作りを目指し、装飾品も家庭的な雰囲気を有している。また、落ち着いて暮らせるように、テレビやステレオの音の大きさや、陽射し等、光の強さにも配慮している。また、見やすく、馴染みやすい時計や、暦を目のつくところに設置している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支える為に支援している。
	○換気・空調の配慮		居心地よく、快適な生活環境を整えるために、換気や空調

84	<p>気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>気になる臭いや空気のとどみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やしすぎや暖めすぎがないよう利用者の状況に応じて適切に行っている。</p>	○	<p>気になる臭いや空気のとどみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やしすぎや暖めすぎがないよう利用者の状況に応じて適切に行っている。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者の身体機能に合わせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。要所への手摺の設置・浴槽・便座等使い勝手の工夫を行っている。</p>	○	<p>入居者の身体機能に合わせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。要所への手摺の設置・浴槽・便座等使い勝手の工夫を行っている。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるから把握しており、家庭的な雰囲気をおさず、トイレや自室の目印等場所の間違いや分からないことことで混乱を防ぐための工夫をしている。</p>	○	<p>職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるから把握しており、家庭的な雰囲気をおさず、トイレや自室の目印等場所の間違いや分からないことことで混乱を防ぐための工夫をしている。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭の空き地を利用して、入居者が野菜を植え育てている。また、野菜を収穫し、季節を感じ食することを楽しみにされ、入居者の生きがいになっている。</p>	○	<p>庭の空き地を利用して、入居者が野菜を植え育てている。また、野菜を収穫し、季節を感じ食することを楽しみにされ、入居者の生きがいになっている。</p>

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは既存のアパートを改修しており、施設然としていないところを活かし「普通の生活環境」ということを大切にしている。利用者お一人ひとりが生活して来られた過去の日々を尊重しつつ、のんびりと穏やかな生活を送っていただくことを支援している。グループホームでの生活が擬似家族化し、孫のような職員や娘や息子のような職員と生活を共にし、それを援助することでお互い人間同士としての、信頼関係を構築することを前提として存在している。ホームの建物は、管理者の家族が所有し、近隣に長年居住しているため、地域住民との関わり合いは、濃厚であるため、ホームにもその関係が引き継がれており、利用者が地域行事に参加した折や、外出時に挨拶を得ることができる有効な関係にある。ご近所の農家の畑に収穫時期に招待されたり、定期的に新鮮な野菜を届けていただいたり等地域に支えられ、そして根ざしたホームづくりを実践している。法人は保育所とデイサービスセンターを運営しており、園児・デイサービス利用者・職員との交流の場も持たれ、全事業所職員対象の研修会も開催され、質の向上に努めている。